津波ハザードマップ

このマップについて

この津波ハザードマップは、熊本県が公表した基準水位（津波浸水想定の水位に津波が建物に当たった際のせり上がりを考慮して算出した水位）をもとに、市民の皆さんが津波から避難するために必要な情報を示したものです。津波災害に備えて、事前に自宅の状況を把握し、避難場所や危険な箇所を確認しておきましょう。
津波は地震の起こり方等により浸水範囲が変化します。
想定にかかわらず、海岸や河川沿いなどからは一刻も早く避難し、浸水想定区域外の地域の方もより安全な場所への避難を検討しましょう。

津波に関する警報・注意報

地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合、気象庁より大津波警報・津波警報・津波注意報が発表されます。

種　類	発表する津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
大津波警報	10m超 10m 5m	地震規模推定の不確定性が大きいと考えられる場合、“巨大”という表現で発表。	●沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 ●津波は繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。 ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
津波警報	3m	地震規模推定の不確定性が大きいと考えられる場合、“高い”という表現で発表。		標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m	（表記しない）	●海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。 ●津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し、小型船舶が転覆する。

津波対策10か条

津波から身を守る最大のポイントは、「逃げるが勝ち」です。地震発生後、津波による災害の発生が予想されたら、すぐに避難しましょう。

1. **家族会議を開こう**
   避難する場所を事前に家族で話し合っておきましょう。
2. **小さな揺れでも油断禁物！**
   小さな揺れでも津波の危険性があります。
3. **引き潮がなくても注意！**
   津波の前に引き潮が必ずあるとは限りません。
4. **満潮のときは要注意！**
   水位が高くなっているので、被害が大きくなります。
5. **津波のスピードは速い！**
   「注意報」や「警報」が出る前に来る津波もあります。ただちに避難しましょう。
6. **高い場所へ避難する**
   海岸から「より遠く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。
7. **注意報、警報が出たら**
   家族や近所に知らせ、急いで高台に避難しましょう。
8. **正しい情報を聞く**
   テレビ・ラジオ・防災無線などで、正しい情報を聞きましょう。
9. **津波はくり返し来る！**
   津波はくり返し襲ってきます。波が落ち着くまでは避難しておきましょう。
10. **海岸・河川に近づかない**
    「注意報」や「警報」が解除されるまで、海辺や河川には近づかない。

施設等凡例

- 一時避難場所
- 区役所・出張所
- 新幹線
- JR
- 国道
- 主要道路
- 市境

津波浸水想定区域（津波災害警戒区域）

基準水位
- 5.0m～10m未満
- 2.0m～5.0m未満
- 1.0m～2.0m未満
- 0.3m～1.0m未満
- 0.01m～0.3m未満

●非常持ち出し品について

いざというときに備えて、非常持ち出し品を常備しておきましょう。

- **食品・水**
  - ●飲料水（500mlペットボトル程度）
  - ●乾パン・クラッカー・缶詰など、火を通さないでも食べられる物
- **救急・安全関係**
  - ●ヘルメット（防災ずきん）
  - ●救急医薬品（絆創膏・傷薬・包帯）
  - ●病人やお年寄りの常備薬
- **日用品**
  - ●筆記用具●ろうそく、ライター
  - ●ナイフ、缶切り●ティッシュペーパー
  - ●ビニール袋●懐中電灯
  - ●携帯ラジオ●電池
- **衣類など**
  - ●衣類（下着・上着）
  - ●タオル●毛布
  - ●手袋、軍手
- **貴重品**
  - ●現金●預貯金通帳、印鑑
  - ●権利証書●免許証
  - ●健康保険証
  - ●クレジットカード類
- **その他**
  - ●洗面用具（歯ブラシ・石けん）
  - ●ほ乳びん●紙おむつ
  - ●メガネ

津波から身を守るために

強い地震（震度4程度以上）を感じたとき、または弱い地震でも長い時間ゆっくりした揺れを感じたときは、安全な場所に避難してください。

強い地震や長い時間の揺れを感じたら

津波警報・大津波警報が発表されたら

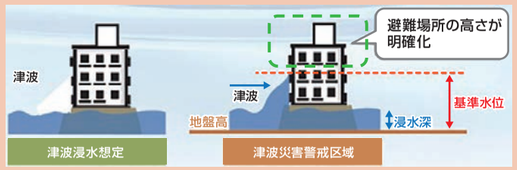
●ただちに海岸から離れ急いで高台などの安全な場所に避難する。

津波注意報が発表されたら（揺れを感じない場合も）

●正しい情報をテレビ、ラジオで入手する。
●海水浴や磯釣りなどはただちに中止する。
●津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報が解除されるまで海岸に近づかない。

基準水位とは？

想定した最大クラスの津波が建物に衝突した際のせり上がり（水位上昇）を考慮した水位であり、地盤面からの高さで表示します。



基準水位が表示されることで、**津波から避難する上で有効な高さを想定でき、避難施設等の効率的な整備の目安**となります。

津波時は、地震や浸水による地盤の緩みで土砂災害が発生する危険があるため、津波と土砂災害を重ねて確認できるWEB版熊本市ハザードマップを公表しています。詳細についてはこちらからご確認ください。

4
5